

令和 7 年度
伊賀市地域包括支援センター事業実績



『介護予防キャラクター にんサポくん』

1) 総合相談支援事業

地域包括支援センターは、福祉の一次相談窓口として高齢者等の多様な相談を受け、三職種（社会福祉士、保健師、主任ケアマネジャー）が関係機関と連携して必要な支援や関係機関への繋ぎを行っています。

支援が難しいケースは、地域ケア会議や相談事案調整会議を開催するなど関係機関との情報共有や役割分担、また具体的な支援方法について検討しています。

相談内容では、社会や世帯の生活様式の変化や人間関係の希薄化等による孤立、また介護や障がい・貧困等が複合的に重なることで支援が難しいケースが増加傾向にあります。

●総合相談・支援件数

センター名	延件数	実件数	主な相談や支援内容（延件数）							*重複あり	
			介護 保険 サー ビス	高齢 者福 祉サ ー ビス	経済 的な 問題	医療 に関 する こと	住居 に関 する こと	障が い	虐待 （疑い 含む）	認知 症	権利 擁護
中部	3,871	706	1,627	446	537	781	442	83	394	379	346
東部	948	203	549	157	178	338	75	71	121	241	161
南部	726	166	130	19	91	55	31	17	292	292	38
計	5,545	1,075	2,306	622	806	1,174	548	171	807	807	545
【参考】 R6年度	5,017	1,077	2,217	425	651	1,046	388	439	933	541	372

2) 権利擁護事業

必要な福祉サービスの提供や日常的な金銭管理に不安のある認知症高齢者に対し、自身の意思決定に基づく適切な権利行使への支援を図るとともに、必要に応じ成年後見制度や日常生活自立支援事業へ繋げるなど高齢者の権利擁護に努めています。

高齢者への虐待通報を受けた際は、速やかに事実確認を行い「伊賀市高齢者及び障がい者虐待検討委員会」に諮り、虐待解消に向けた支援を行っています。

また、虐待防止対策の周知のため、各事業所からの依頼に応じて研修講師として出向しています（令和7年度実績：3箇所で4回）。

【資料２】

養護者による虐待は、特に高齢女性に対する、夫（配偶者）や子どもからの「身体的」・「心理的虐待」が多い傾向にあります。

通報元は、本人と日常的に関わることが多いケアマネジャーやサービス事業所から寄せられることが多く、高齢者虐待防止法に基づく虐待通報義務が啓発を通じて認知されていることや、相談や通報体制が整備されている為と考えられます。

〔養護者による高齢者虐待〕

●通報件数と通報者の続柄

年度	虐待通報 受理件数	通報者の内訳（重複あり）								
		本人	家族 親族	ケア マネ	サービス 事業所	医療 機関	民生 委員	警察	行政 機関	その他
R5	52	9	3	21	6	2	1	4	3	3
R6	41	1	3	11	8	7	0	1	7	3
R7	46	2	5	13	7	1	1	3	6	8

※その他…近隣住民４人、虐待者本人２人、その他２人

●虐待認定件数と虐待の種別

年 度	虐待認定 件数	虐待の種別（重複あり）					【参考】 当該年度の通報事案に 対する認定率
		身体的 虐待	介護 放棄	心理的 虐待	性的 虐待	経済的 虐待	
R5	38	29	6	22	0	5	73.1%
R6	32	25	3	10	1	6	78.0%
R7	27	23	3	13	1	2	58.7%

●被虐待者の性別

年度	被虐待者人数	性別	
		男	女
R5	38	9	29
R6	32	5	27
R7	27	5	22

【 資料 2 】

●虐待者の属性

年度	虐待認定 件数	虐待者の属性（重複あり）								
		夫	妻	息子	娘	息子の 配偶者	娘の 配偶者	兄弟 姉妹	孫	その他
R5	38	14	0	14	6	0	1	2	0	2
R6	32	8	2	12	9	0	0	0	0	1
R7	27	7	4	11	5	2	0	0	0	0

●被虐待者に対する対応

年度	分離の有無		
	分離	分離せず	既に分離状態
R5	9	42	2
R6	5	30	6
R7	6	34	6

〔養介護施設従事者等による高齢者虐待〕

●通報受理件数と虐待認定件数、通報者の内訳

年 度	虐待通報 件数 （事業所数）	通報者の内訳（重複あり）						
		本人・ 家族	当該施設 職員	医療 機関	ケア マネ	介護 相談員	行政 職員	その他
R5	3（3）	0	2	0	0	0	0	1
R6	1（1）	0	1	0	0	0	0	0
R7	4（4）	1	0	0	0	0	0	3

●虐待認定件数と虐待の種別

年 度	虐待認定件数 （事業所数）	虐待の種別（重複あり）				
		身体的虐待	介護放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待
R5	0（0）	0	0	0	0	0
R6	0（0）	0	0	0	0	0
R7	0（0）	0	0	0	0	0

〔高齢者及び障がい者虐待検討委員会で検討したケース数（高齢者のみ）〕

年度	検討ケース数
R5	153
R6	117
R7	116

3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

地域の様々な社会資源と連携し質の高い生活支援サービスを提供するため、ケアマネジャーのスキルアップ支援や支援困難事例への相談と助言、またケアマネジメントの実践等の研修会等を開催しています。

一方、ケアマネジャーの高齢化や人員不足は全国的な課題であり、当市でも居宅介護支援事業所連絡会等を通して、働きやすい環境の整備や業務負担軽減の検討を行いました。

●ケアマネジャーを対象とした研修会の開催

開催日	内 容	講 師	参加数
7月17日	高齢者を支える制度について ・生活保護制度について ・養護老人ホームについて ・障がい福祉サービスについて	生活支援課 介護高齢福祉課 障がい福祉課	66
11月27日	認知症について考える 「最新の知見と対応方法」 ※大塚製薬株式会社主催の多職種向け講演会との 協力開催	ますずがわ神経内科クリ ニック 院長 真鈴川 聡様	45
2月13日	ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について 「自分らしく暮らし続けるための人生会議」	岡波総合病院 看護師 中 晃子様	54

●ケアマネジャーを対象とした事例検討会の開催

回	開催日	参加数
第1回	6月18日	19
第2回	8月20日	13
第3回	10月15日	18
第4回	12月17日	13
第5回	2月18日	9

事例提供者は、参加者から質問を受けることで新たな視点への気づき、またファシリテーターは、自事業所内での会議を円滑に進めるための技術向上を目指しています。

【 資料 2 】

4) 介護予防ケアマネジメント事業・介護予防支援事業

要支援認定者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者を対象に介護予防支援プランを作成し、在宅で自立した生活ができるよう支援しています。

高齢化率の上昇で利用者が増加する一方、介護支援専門員の人材不足は全国的な課題で、委託可能な居宅介護支援事業所での受け入れが困難となり、包括直営での実施数が増加しています。

なお令和6年度から、居宅介護支援事業所では従前の包括からの委託に加えて介護予防支援の指定を受けることで、利用者から直接受託が可能となりました。（令和8年度末で4事業所が指定。）

●介護予防ケアマネジメント、介護予防支援実施件数

	直営／委託	令和5年度	令和6年度	令和7年度
介護予防ケア マネジメント	直営	4,014	4,244	4,267
	委託	731	660	681
介護予防支援	直営	7,705	8,007	8,287
	委託	1,633	1,388	1,403
	直接指定	—	195	336
直営・委託の 別	直営計	11,719	12,251	12,554
	委託+直接指定計	2,364	2,243	2,420
合 計		14,083	14,494	14,974

5) 地域ケア会議等の開催（多機関協働事業）

地域ケア会議は、重層的支援体制整備事業に基づく多機関協働事業として位置付け、支援者間の連携や、支援方針及び役割検討を行うことで支援困難ケースの解決に向け取り組んでいます。

また、個別ケースから見えてくる地域課題の抽出のほか、地域固有の先進的な取組みを共有し、「第5次伊賀市地域福祉計画」策定に向けた意見集約を行いました。

この中で、「人材不足など社会資源が減少しサービスが受けにくい」こと、また「外出時の交通手段やごみ出し」等、福祉だけでは解決できない生活課題が目立ってきています。

●地域ケア会議等の開催回数（R7 年度）

地域ケア会議			相談事案調整会議
個別会議 （民協単位）	運営会議 （支所単位）	担当会議 （全市単位）	
1	14	0	0

6) 一般介護予防事業

介護予防に関する知識の普及啓発を図るとともに、保健師等による介護予防出前講座や住民主体の介護予防活動の育成・支援を目的として介護予防リーダーの養成を行っています。

●介護予防出前講座

	内 容	回数	受講者数
介護予防出前講座	老人クラブや地域の要請により、介護予防に資するテーマで講座を実施しました。	30	576

●介護予防リーダー養成講座

回数	受講実人員	講座修了者数
10	6	6

講座修了後に地域での活動に生かすため、シュミレーションシート作成や教室発表をとおし、受講者の連帯感や活動活性化へ向けたインセンティブ意識の醸成を図りました。

●介護予防自主グループ数

上野地区	島ヶ原地区	伊賀地区	阿山地区	大山田地区	青山地区
22	2	2	2	2	9

自主グループの活動が継続できるよう保健師が訪問し、運営への助言などを行っています。

●介護予防リーダースキルアップ研修

回数	参加延人数
2	53

7) 認知症総合支援事業

認知症になっても尊厳と希望をもって安心して住み慣れた自宅で生活できるよう、認知症とともに生きる「共生」や、認知症に関する知識の普及を行いました。

また、認知症に関する相談では、必要に応じ受診等の専門機関へ繋ぎを行っています。

① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

●認知症サポーター養成講座、認知症ジュニアサポーター養成講座

対 象	開催回数	受講者数
小学生（阿山・大山田・島ヶ原・三訪・久米・中瀬・青山）	7	174
高校生・学生（伊賀白鳳高校、岡波看護専門学校）	2	33
職域（上野商工会議所、シルバー人材センター）	2	53
一般市民	7	100
合 計	18	360

- ・開催回数は昨年度並みですが、少人数で開催する団体が多い傾向にあります。
- ・職域では、認知症について「初めて学んだと」いう人が多いことから、引き続き現役世代などの幅広い世代にアプローチしていきます。

●ステップアップ研修

開催日	場所	内 容	参加数
3 月 14 日	はあとの杜上野	・講義「認知症の人の気持ちを理解する」 ・VR 体験「認知症の人の疑似体験」 - 高年齢者疑似体験 ・グループワーク「自分や地域でできること」 ・チームオレンジ活動	18

- ・認知症サポーター等を対象に実施しました。
- ・日常的に認知症の人に接することがある参加者も多く、体験型の教室に関心を持っていただきました。
- ・VR での体験機器で疑似体験することで高齢者への理解を深めたり、認知症医療機関を知ることができた、との意見が聞かれました。

●キャラバン・メイト連絡会

開催日	内 容	参加数
5 月 29 日	第 1 回定例会 ・今年度の定例会開催について ・今年度の活動について 市が実施する認知症支援事業への参加	6

【 資料 2 】

	認知症映画上映会・講演会での活動紹介（ブース出展） 認知症サポーター養成講座 メイト通信作成について	
8月21日	第2回定例会 ・認知症サポーター養成講座の役割分担について ・認知症映画上映会・講演会時のブース出展内容について ・メイト通信作成について	6
8月23日	●認知症サポーター養成講座（いきいき教室） ・寸劇担当	5
9月13日	●認知症サポーター養成講座（上野丸之内）	8
9月25日	●認知症サポーター養成講座（ハイトピア伊賀）	8
10月26日	認知症啓発映画上映会・講演会のブース出展 活動内容紹介・認知度調査	7
11月13日	第3回定例会 ・認知症サポーター養成講座（9月実施）のアンケート結果 ・11月認知症サポーター養成講座の役割分担について ・認知症講演会ブース出展の感想、次年度の取り組み	8
11月30日	●認知症サポーター養成講座（伊賀市社協）	6
2月26日	第4回定例会 ・来年度の活動について ・メイトメンバーの整理について ・3月認知症サポーター養成講座の役割分担について	3
3月15日	●認知症サポーター養成講座（わにまるカフェ）	5

- ・キャラバン・メイトの活動周知のため、啓発映画上映会・講演会、また会場でのブース出展を行いました。
- ・会員確保のため、過去に認知症サポーター養成講座を受講し、かつ事業案内を希望し記名された方に、県主催のキャラバン・メイト養成研修の案内を送付しました。5名が研修を受講しましたが、新規メンバーの獲得にはつながりませんでした。
- ・キャラバン・メイト通信の発行（2回）。市が実施する認知症カフェへの参加。

【資料2】

●認知症啓発事業

アルツハイマー月間(9月)、世界アルツハイマーデー(9月21日)に合わせて啓発を行いました。

啓発媒体等	内 容
広報いが9月号	新しい認知症観、認知症支援事業について紹介
行政チャンネル	放送期間：9/8～9/14（期間外も忍者市チャンネルでの視聴可） タイトル：『認知症を理解しよう！』 認知症の基礎知識と認知症支援に関する各事業についての紹介
パネル展	期 間：9/22～9/30 場 所：本庁舎1階市民スペース 内 容：認知症（原因・現状・症状）のパネル設置、パンフ資料設置
街頭啓発 ※主催： 認知症の人と家族の会	日 時：令和7年9月9日（火）14:00～15:00 場 所：イオン伊賀上野店 内 容：街頭啓発（啓発用パンフや物品配布）、相談コーナー設置

②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護サービスの提供

●認知症初期集中支援チームの活動

実支援人数	支援方法（延件数）					チーム員会議 開催回数
	来所	訪問	電話	文書	その他	
7	16	27	50	0	17	12

- ・チームは、専門医および3職種（保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー）で構成
- ・認知症発症早期に適切な医療や介護サービスに繋げることで、認知症の進行を遅らせ、住み慣れた自宅でなるべく長く、その人らしく生活できるよう支援を行なっています。

●もの忘れ相談プログラム（TDAS）を使用した早期発見

実施回数	実施場所	相談者数
9	ハイトピア伊賀他	82

- ・定期相談はハイトピア伊賀で4回実施。お達者講座として地域で5回実施。
- ・心配なもの忘れがあると思われる人には受診勧奨等を実施。

●VR機器を活用した認知機能チェックと認知症予防教室

実施回数	実施場所	実参加者数
2	ハイトピア伊賀	15

- ・認知症に関する講話と認知機能チェックを行う教室を初開催。
- ・認知症予防等の講話には関心があっても、「認知症になりたくない」という思いから、認知機能チェックをしたくないという人もいました。
- ・MCI（軽度認知障害）状態や認知症の早期発見には、認知症に関する正しい知識の普及啓発が重要です。

【 資料 2 】

③認知症の人と介護者への支援

●認知症の人と家族の会つどい

開催場所	開催回数	参加数
伊賀市（伊賀市役所） ※偶数月	6	57
名張市（名張市役所） ※奇数月	6	48

- ・ 認知症の人とその家族が情報交換や、お互いの気持ちを聴き合う場として実施しています。
- ・ 男性介護者（参加者の妻や母が認知症）の参加が多く、日ごろの介護の困りごとの共有だけでなく、自身の心情を安心して吐き出すことができる貴重な場となっています。

●認知症カフェ

開催場所	開催回数	参加数
いがオレンジカフェ（ハイトピア伊賀）	12	308
オレンジカフェあやま（阿山保健福祉センターホール）	12	179

④認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

●認知症啓発映画上映会

開催日	場 所	参加数	内 容
10月6日	伊賀市文化会館	約 320 人	・ 啓発映画上映 『ぼけますから、よろしくお願いします。』 ・ 講演会 同映画監督：信友直子氏
	ロビー及び会場内		関係機関によるブース出展 ・ 地域見守り協定等締結企業 コープみえ（展示） 住友生命（インボディ測定） 第一生命（ベジチェック） 中北薬品（情報提供） 明治安田生命（血管年齢測定） ・ 伊賀白鳳高校（展示） ・ 伊賀薬剤師会（相談） ・ 上野病院（デイケア作品展示、脳トレ） ・ キャラバン・メイトいが（活動啓発） ・ 認知症と家族の会（活動啓発）

【資料２】

●認知症安心見守り声かけ訓練

開催日	地区名	参加数
6月21日	友生地区住民自治協議会	22

- ・地区の防災対策委員会メンバーを対象に実施。
- ・認知症の知識だけでなく、地域のつながりの重要性を再認識する機会となりました。

8) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

後期高齢者医療広域連合の委託をうけて、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」に取り組みました。

この事業は、高齢者の心身における多様な課題に対しきめ細かな支援を行うもので、後期高齢者の保健事業について、介護保険の地域支援事業や国民健康保険の保健事業と一体的に実施することとされています。

このことから、医療・介護のデータ分析を行い、ハイリスク者への個別指導（ハイリスクアプローチ）及びフレイル予防についての普及啓発（ポピュレーションアプローチ）を実施しました。

特に令和7年度には、新事業として、家庭での電力使用状況からAIがフレイルの可能性が高い人を検知する「電力スマートメーターを活用したフレイル予防（Eフレイル事業）」を実施し、フレイルが疑われる人に、保健師による訪問介入を行いました。

① ハイリスクアプローチ

区 分	対象者の抽出条件	対象	実施	結 果
低栄養防止事業	健診及び電力スマートメーターを活用したフレイル事業で低栄養の心配があるとされた人	50人	2人	3か月間に3回保健指導を実施。 全員が食事内容を改善でき（蛋白質の摂取量増加等）、体重が増加した。
口腔機能の低下防止事業	健診で口腔機能の低下の心配があるとされた人	481人	26人	市内3か所の会場で、「お口元気アップ教室」を開催。歯科衛生士による個別指導を取り入れたことで、参加者の満足度は高かった。教室開催後に歯科受診の有無、歯科保健行動の改善状況の聞き取りを行った。
糖尿病性腎症重症化予防事業	糖尿病の治療を中断している人	7人	4人	2回以上の訪問指導を実施。糖尿病治療の中断によるリスクの説明を行い、今年度の健診及び医療の受診勧奨を行った。4人中1人が、糖尿病の治療を開始した。

【 資料 2 】

高血圧予防事業	健診で高血圧が認められるが、医療にかかっていない人	30 人	25 人	2 回以上の訪問指導を実施。訪問時に血圧を測定し、受診勧奨。家庭血圧の測定を勧めるとともに、寒冷や塩分摂取と血圧の関係等について指導した。25 人中 5 人が、治療の開始、医療機関で指導を受けるなどの保健行動をとることができた。
健康状態不明者の状態確認	健診未受診で、医療にもかかっていない人	38 人	22 人	介護等への接続が必要な人が 4 人おり、必要な支援を行った。また健診の受診勧奨を行った。指導を実施した人のうち、4 人が健診を受診した。
身体的フレイル予防事業	電力スマートメーターの使用状況から、身体的フレイルリスクが高い人	3 人	3 人	A I が検知したフレイルリスク疑いのあった人に、保健師が訪問し、フレイルチェック、日常生活の状況等のアセスメントを行い、フレイル予防のための生活指導を 3 人に実施し、2 人が改善した。

②ポピュレーションアプローチ

圏域	上野東南	上野南	上野西	上野北	伊賀	阿山	島ヶ原	大山田	青山	合計
回数	11	4	14	3	10	11	1	4	4	62
人数	273	34	303	32	110	172	10	40	57	1,032

フレイル予防をテーマに、地域の通いの場などで健康教育を実施しました。

あわせて、集団健診やイベントの場でも、高齢者の健康課題について周知する機会を設けました。

口腔機能に課題がある人が多かったため、歯科衛生士による健康教育の回数を増やしました。

地域の健康課題をわかりやすく伝えるとともに、通いの場での支援を継続し、参加者がフレイル予防について考えるきっかけとなるように努めました。

9) その他の課題検討に対する取り組み

人間関係の希薄化や生活様式の変化、また人口減少や高齢独居世帯が増加することで、これまで自身や地域でなされてきた生活の営みが難しくなっており、今後も進むことが確実です。

解決や対応は難しい課題で、直ぐに実施することは困難ですが、事業者ヒアリングによる実情把握や関係所管課と情報共有しつつ、事業展開の可能性への検討を行ないました。

① 頼れる身寄りの無い方の緊急連絡先確保に関する取り組み

頼れる身寄りが無いことで緊急連絡先が確保できず、入院や入所の際に支障を来す場合があります。現行制度では判断能力が無い場合には成年後見制度、また一定の資力がある場合には任意後見制度などを活用することもできますが、「判断能力があるものの、資力が無い」場合、現行既存制度の「ハザマ」となっています。

このことから、現在後見業務を行っている「公益社団法人コスモス成年後見サポートセンター」へ日常的な見守りに加え緊急連絡先に関する業務を委託することで、所属行政書士と地域包括支援センターの社会福祉士等が連携しながら高齢者等の権利を護る事業をモデル的に先行実施しました。

【委託先】 公益社団法人コスモス成年後見サポートセンター

※対象となる業務は、緊急連絡先、日常の見守り（月1回の訪問や連絡）等、実施要項に基づく業務

② 移動困難者対策への取り組み

福祉部門では、福祉有償運送を中心に福祉施策による移動困難者支援を継続しています。

しかしながら、高齢化による自動車免許の返納や、公共交通機関を利用できないことで通院や買い物などの外出ができず、これまで以上に移動に制約のある高齢者が増えています。交通空白地に住む高齢者や移動困難者からのニーズは福祉部門で把握しやすい状況であるため、いが移動送迎連絡会や公共交通課と連携しながら、これからの交通体系を検討しています。

一方、介護保険制度における介護予防・日常生活支援総合事業などを活用した移動支援施策の検討も必要となっています。

③ 福祉人材確保への取り組み

人口減少や少子高齢化が進み、福祉業界ではこれまで以上に福祉人材不足に陥っています。このままでは、安定したサービスを維持することが困難となることから、状況を少しでも改善することを目的に福祉人材確保各種事業に取り組みました。

・Instagram「伊賀市でふくし」の開設

福祉業界の魅力や介護現場等の仕事内容を発信します。特に若年層がアクセスしやすいよう、SNS メッセージでの就労相談に取組みました。

※フォロワー249人 投稿数49件 総再生数56,705回（令和7年度末現在）

【資料2】

・啓発活動

ポスター掲示やイベント時（上野まつり、女子サッカー「伊賀 FC くの一三重」公式戦）における啓発物品の配布に取組みました。

・将来の福祉人材の育成

県立伊賀白鳳高校ヒューマンサービス科とコラボし、実際のケアプランの作成を居宅介護支援事業所のケアマネジャーから直接伝えました。

また、1月には介護福祉教育発表会を開催し、高校生の目から見た福祉課題への提案を行いました。

※介護福祉教育発表会：2026年1月13日（火）14：15～15：00 参加者 80人

発表 1：「市と高校、民間介護事業所が連携して実施した福祉人材確保育成事業の成果」

発表 2：「高校生が考える伊賀市の介護人材確保の方策

～わたしたちができることを考えよう～」

④ 福祉情報検索サイト「ぽちっと伊賀」の一般公開へ向けた取り組み

福祉事業者支援ツールの一つである「ぽちっと伊賀」は、これまで介護事業者に限って利用し公的サービス以外にも、主に高齢分野の地域サロンなどインフォーマルなサービス情報を行政と民間が一緒になり作り上げてきたサイトです。

今年度は、地域での福祉資源情報を充実するため、新たにこども分野にも広げるとともに、一部情報の一般公開を検討するため試験的公開を実施しました

（※試験的一般公開開始日：令和7年8月26日）

⑤ 災害時要支援者への個別避難計画作成支援の取り組み

要介護や障がい手帳など所持し、「伊賀市災害時要支援名簿」に関係機関への情報提供することについて同意のうえ登録された方に対し、災害時における個別避難計画の作成支援を行いました。事業推進には、健康福祉部関係課、防災危機対策局、伊賀市社会福祉協議会、地域連携部と連携し実施しました。

令和7年度は、住民自治協議会へ委託するモデル事業とし、作成手引き類の整備や課題の抽出などを行いました。令和8年度は全市展開を予定していることから、全住民自治協議会を対象とした成果報告会及び概要説明会を実施しました。

【概要】

モデル実施地域：中瀬地区、府中地区、島ヶ原地区

計画作成数：対象者数 166 人、（うち作成数：72 人、防災情報提供のみ：30 人）

※防災情報提供のみ＝重要事項説明書提出者数－計画提出者数

【 資料 2 】

10) 地域包括支援センター内の各種会議・研修

市役所の行政組織、及び介護予防支援事業所でもある地域包括支援センター職員の資質向上として下記のとおり検討会議や研修を行いました。

開催日	会議・研修名	概 要	対象者
5/29 10/31、2/26	虐待防止委員会	ヒヤリハット、苦情案件等の検証 研修内容の企画	各委員
5/29、10/31	感染症防止委員会	保護用具の使い方等（内部講師）	各委員
所内会議随時	BCP 委員会	BCP 計画の見直し、訓練内容の企画	各委員
8/28 ※実地訓練は 適宜	交通安全研修	① 伊賀警察署交通課による講話 ② 実車、シミュレーター活用による実地 訓練（三重県免許センター）	職員
11/20 3/16	虐待防止研修	① 「高齢者虐待防止・身体拘束等の適正 化について」（内部講師） ② 三重県虐待防止専門職チーム （講師：弁護士・社会福祉士） テーマ「困難事例の振り返りについて」	職員
11/20	感染防止研修	所内保健師による感染防止実技研修	職員
3/24	BCP 実動訓練	BCP 計画に基づく安否確認、指示ルート確 認訓練	職員
第 1 回 11/20, 21, 27 第 2 回 1/23, 27, 29	人権研修	第 1 回 「ヘイトスピーチについて」 第 2 回 「同和問題について」	職員
概ね月 1 回	健康福祉部 所属長会議		所長
概ね月 1 回	包括支援センター 係長会議		所長・係長